

健康都市施策での生活習慣病医療費に影響する要因分析—SWCプロジェクト(43)—

塚尾 晶子^{1,2}, 安田光佑¹, 宮本雄司¹, 久野譜也^{1,2}

1 つくばウエルネスリサーチ

2 筑波大学大学院 人間総合科学研究科

【背景】

健康都市構築を推進しているスマートウエルネスシティ総合特区では、費用対効果の高い施策を展開するために、健康に関する医学的データに加えて、都市環境、コミュニティの活性度、ソーシャルキャピタルなどの健康に影響を与える要因を網羅した分析により、健康政策の効果度合いを客観的に評価する指標を活用している。

【目的】

生活習慣病医療費と生活習慣の関連を明らかにし、医療費削減に向けた費用対効果の高い施策の方向性を検討すること目的とし医療費に影響を及ぼす要因分析を行った。

【方法】

2013 年度と 2014 年度の医療レセプトデータ及びライフスタイルアンケートを有する者 5,517 人(40 歳から 74 歳、国保加入者)を分析対象とした。2014 年度の生活習慣病医療費、BMI、体脂肪率、筋肉率を従属変数として重回帰分析を行い、ライフスタイルアンケートから点数化したソーシャルキャピタルやヘルスリテラシーなど生活習慣との関連を検証した。

【結果】

生活習慣病医療費とライフスタイルの関連について検討した結果、主観的体力($\beta = 0.45$)、自宅周辺の環境($\beta = 0.03$)、ヘルスリテラシー($\beta = 0.03$)が生活習慣病医療費に有意に影響していた。

【結論】

医学的データだけでなく、都市環境、コミュニティの活性度、ソーシャルキャピタルなどの総合的要因からの分析により、地域での健康度に影響する要因を明らかにすることが可能となり費用対効果の高い施策展開が可能となると示唆される。